市長雑感

(98)

かみしめたい〝ことばの味〟を

初春は、太陽ののぞく結構な暖冬と共に歩み出し、立春の味わいも「ドカ雪の恐れなし」の予報から、ぜいたくな戸惑いが先に立つ。立春といっても、まだまだ雪深い余寒の続く名ばかりの春が例年だから、寒いとばかりに重ね着したことで、二月を着更衣（きさらぎ）と解してたこともあるという。

二月といえば、月遅れの正月行事で新春をかざった記憶もまだ新しい。市内の大かたの地域もそうだったと思うが、主に農村地域に見られた旧正月を祝うそれは、精いっぱいのご馳走をはずみ、立春というのに「お正月だから」のオツな気分がまかり通っていたようだ。二月の夜は「二着更衣」ではないが、ひどい底冷えにも襲われる。こん夜は、みんなで甘酒なんかで炉をかこみ、杉葉やまきを差しこして暖をとる。そして世間話しに花咲かせ、農耕談義で雪どけの春を待つ。今にして思えば、秋に貯え冬に耐えるこうした雪国の生活過程は、きびしい寒さからの防衛と、くらしの張りを求めてのものだったに違いない。

が、ここからは、土に生き、収穫期に賭けた農家の人たちのくらしむきが展望できることである。

今年の寒の内は、幸いながら例年にないおだやかさが続き、降雪量も心なし遠慮して雪害のわずらわしさから解放された。冬型にどっかりと居すわられ、除雪車がフル出動で出費を増やすいつものパターンに比べれば「雪が少なくて結構ですね」との日常会話にも気持ちのなごみが先に立つ。でも〝雪は水資源のへそくり〟というから、その辺のことも考え合わせねばなるまいが…。それにしても、この〝へそくり〟という言葉、本来なら少しずつひそかにお金をためることだから、なじめない気がしないではないが、なんとなく、愛きょうと庶民くささの感じられるところがいい。〝貯え〟によっては、まさかのときに役立つのだから。もう少し飛躍して、知識や健康のへそくりともなれば、言葉の余韻はなお残る。どっちにしても、味わいがあっておもしろい。

今年の私も、温故にしてかつ、こうした言葉の中味をもう少していねいに眺め、すなおに感心してみることから始めてみたい。

志田保

「…」とタイミングよく進む〝カエルと舟〟ゲーム

求めて……

しらずの「母と子の交流学習」

情操豊かな子に育って――

親子の断絶――などという言葉が聞かれるようになって久しくなりますが、この「母と子の交流学習」では、そんなこととは無縁のようです。

親子で楽しく遊び、いっしょに考える――そんなふれあいが親子をまるで一つにしているかのようです。

この「母と子の交流学習」というのは公民館活動の一つで、親子の連帯を強め、情操豊かな子どもに育ってほしい、と二年前から始めたものです。

今年は各幼稚園から募集した七つのグループが月一回、市民会館をいろいろな活動を行っています。

一つのグループは十組ほどの親子からなっていますが、交流を重ねるうちにいつの間にか母と子が、そして見知らぬ親子同士がうちとけあっていきます。

寒さ知らずのチビッ子たちが学校を終えて、元気にお母さんの手を引いてやって来ました。

では、このようすを写真で紹介しましょう。

お買物、ご用命は市内で

内科・小児科・レントゲン科
大坂医院
新町1丁目6-12　TEL (4)5122

＊フレッシュにふれあう心＊
遠く離れた旧知の方に
〝お元気ですか…〟と
お花を贈りましょう。
ポピー
花言葉
うれしい便り
㈱川名花店
本町3丁目　☎3－1187(代)